

第2学年 国語科学習指導案

学 級 2年A組(男子12名 女子8名 計20名)

指導者 瀧本 康紀

1 単元名 いにしえの心を訪ねる『扇の的―「平家物語」から』(光村図書)

2 単元の指導目標

- 古典の文章に関心を持ち、「平家物語」の世界を楽しむことができる。 【関心・意欲・態度】
- 「扇の的」を読み、登場人物の思いを想像することができる。 【伝統的な言語文化に関する事項】
- 「扇の的」を読み、古典に描かれているものの見方や考え方について自分の考えを持つことができる。 【読むこと】

3 単元の指導計画

(1) 指導計画(全5時間)

- 第一次「単元の学習の見通しを持ち、作品についての知識を学ぶ」 …1時間
- 第二次「現代語訳を元に作品を理解するとともに、登場人物の心情を読み取る」 …3時間
- 第三次「立場を決めて意見を交換し、根拠を明らかにして意見文を書く」 …1時間(本時)

4 単元の評価規準

関心・意欲・態度	伝統的な言語文化に関する事項	読むこと
<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の心情について、交流を通じて考えを深めようとしている。 ・「扇の的」の特徴をつかみながら音読している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「あ、射たり」「情けなし」に込められた思いや与一の心情を想像できる。 ・老臣たちが義経を非難した理由や、義経の言葉に感じ入ったわけを捉えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流を経た自分の考えについて根拠を明確にして意見文にまとめることができる。

5 本時について

(1) 指導目標

「あ、射たり」と「情けなし」と言った源氏の人の気持ちを想像し、自分の考えを既習の知識と関連付けて意見文にまとめることができる。

(2) 評価規準と個に応じた支援

	A(十分満足)	B(概ね満足)	B生徒への支援	C生徒への支援
伝統的な言語文化に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ・グループでの交流を経て、根拠を含んだ意見文を、既習の知識と関連づけて書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループでの交流を経て、根拠を含んだ意見文を書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流のとき、自分とは違う根拠の中に優れたものがなかったか気づきを促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜ「あ、射たり」「情けなし」に共感できるのか、理由を考えさせる。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを、「平家物語」についての知識や、源氏と平家の考え方の違いに関連づけた根拠に基づいて、意見文にまとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを、根拠を明らかにして意見文にまとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「平家物語」や源氏と平家の違いについての既習の事柄を想起するよう助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「平家物語」の価値観、源氏と平家の違いなど、根拠になりうる要素を例示する。

(3) 授業づくりのポイント

①生徒の思考を深めさせる発問や場面について

「扇の的」では、那須与一の心情を想像し、「あ、射たり」や「情けなし」という言葉を発した源氏の武者の思いに対する自分の考えを持たせたい。そのために、今回取り上げる指導事項「読むこと」の言語活動例「詩歌や物語を読み、内容や表現の仕方について感想を交流する」を取り入れ、自分が共感する立場の理由や根拠を補強することで生徒の思考を深められるようにする。

②既習の知識をふまえ、根拠を明確にして自分の言葉で説明したり活用したりする場面の個に応じた設定について

理由や根拠を明らかにして意見文を書く際には、自分の立場を決める→グループで意見を交流する→交流を経た自分の考えを意見文にまとめる、という段階を踏むようにする。この際に、意見の根拠がただの感想にならないように、前時までに学習した作品の時代背景や、源氏と平家の考え方の違いといった既習事項を活用して、説得力のある根拠を持たせるようにする。

③「いわての授業づくりの3つの視点」について

ア 学習の見通し

学習課題を提示する際に、本時のゴールが意見文を書くこと、その前にグループで意見を交流させることを告げ、本時の目標が自分の読みを深めることであることを確認する。

イ 学習課題を解決するための学習活動

本時の学習課題を解決するためにグループで意見を交流するが、その際に、同じ立場で優れた理由や根拠があれば、自分の意見文に取り入れるようにすること、また、反対の立場で優れた意見があれば、自分の立場を変えてもよいことを告げ、説得力のある意見文を書くために役立てられるようにする。

ウ 学習の振り返り

意見文を書く際には、最初の考えと、交流後の考えを対比させられるような書き方にする。学習の振り返りを行う際は、①交流によって他の人の意見や理由、根拠を知ることができたか。②理由や根拠を明らかにして意見文を書くことができたか。ということについて考えさせることによって、自分の読みの深まりや変容を捉えられるようにしたい。

(4)本時の展開

段階	学習内容	教師の支援と評価
導入 (5分)	1 「扇的」の音読 2 課題提示	・平家、源氏、与一、五十ばかりなる男の置かれた状況を振り返らせる。
展開 (40分)	「扇的」を読んで「あ、射たり」か「情けなし」のどちらかに立場を決めて意見を交換し、理由や根拠を明らかにして意見文を書こう。	
	3 課題解決 「あ、射たり」といった人、「情けなし」といった人の気持ちについて、どちらかの立場になって理由や根拠を書き出す。 (学習シート)	・自分の立場の理由や根拠を書けているか。 ・理由や根拠が複数あれば意見の説得力が増す。 (学習シート)
	4 学習シートをもとにグループで意見交流	・グループの人の意見をメモを取りながら聞く。 ・自分と同じ立場で、優れていると思った根拠は取り入れてよい。 (観察・学習シート)
	5 双方の立場からの意見発表	Cの生徒への支援 ・共感する理由を考えさせる ・根拠になる要素を例示する
6 まとめ 交流や発表を参考に文章にまとめる。	Bの生徒への支援 ・自分と違う根拠に着目させる ・作品の背景を想起させる	
終末 (5分)	7 本時の学習の振り返り	・自己評価の記入 ①他の人の意見を聞いて自分の考えを深めることができたか。 ②理由や根拠を明らかにして意見文を書くことができたか。